

水戸赤十字病院 脳神経内科

病院概要

水戸赤十字病院は、大正12年の開院以来100年近くに渡り、水戸及び近隣地区の急性期医療を担う中核病院として、地域医療の充実に努めてきました。現在は病床数442床、標榜診療科24科を擁しています。平成27年4月からは緩和ケア病棟20床を開設し、翌年は地域包括ケア病棟も整備しました。これにより、悪性腫瘍の診断・治療から終末期のケア、在宅復帰につき、一貫した医療が行えるようになりました。さらに、茨城県基幹災害医療センター、がん診療指定病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、エイズ拠点病院、地域医療支援病院など多くの指定を受けており、地域の医療機関に協力を賜りつつ、患者さん中心の医療を推し進めています。また、当院の外科・泌尿器科・産婦人科では、内視鏡下手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」や腹腔鏡下手術といった、低侵襲手術の安全な実施につとめています。患者さんのケアの充実のため、がん関連認定看護師やコメディカルスタッフの有資格者増強など、人材育成にも力を注いでいます。新型コロナウイルス感染症対策については、茨城県から重点医療機関としての指定を受け、専用病棟での入院治療や検査等を行っております。

脳神経内科の特徴

当院の脳神経内科は内科から独立しています。しばらく常勤スタッフ1名で、慶応義塾大学や埼玉医科大学から非常勤医師の応援を頂いていましたが、令和3年4月から獨協医科大学卒業の専門医が常勤スタッフとして加わりました。CT2台とMRI2台(1.5Tと3.0T)があり、休日、夜間も緊急で検査ができます。その他、SPECT、頸動脈エコー、神経伝導検査/針筋電図、脳波なども行えます。神経内科疾患を全般的に受け入れています。脳血管障害、認知症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、ギラン・バレー症候群・重症筋無力症・多発性硬化症等などの神経免疫疾患を多くみています。また、嚥下障害に対して、内視鏡的胃瘻造設も当科で行っています。パーキンソン病の治療として、LCIGも行っていますが、DBSは当院では行えず、大学病院へ紹介しています。茨城県は神経内科専門医が少なく、周辺の水戸医療センター、県立中央病院、ひたちなか総合病院、脳神経内科開業医と2か月に1回、症例検討会を行っています。また、筑波大学を中心とした神経難病ネットワークを構築し、情報交換も行っています。東京から常磐線特急で1時間と近く、緑が多く環境の良いところです。症例も多くを経験できますので、是非当院での研修を検討してください。

スタッフ

統括管理監 (部長)	小原 克之 (神経内科一般)
	浅川 洋平 (神経内科一般、獨協医科大学大学院卒)